

平成29年度

ひと ひと
女と男の

いきいきフォーラム
記録集





はじめに

昨年の、内閣府及び世界経済フォーラムの調査によると「職場での差別待遇」は50.5%、ジェンダーギャップ指数^{*1} 114位／144か国（東アジアで最低レベル）であり、また家事育児分担比^{*2}（妻7：夫1）や非正規雇用率^{*3}（女性3：男性1）からも、女性をめぐる環境が家庭や社会において厳しい状況です。

一昨年成立した「女性活躍推進法」や「男女雇用機会均等法」施行から30年経過しているにも拘らず、法制度と実態の乖離は明白です。この状況に鑑み、「両性の本質的平等」の実現こそが個々人の真の幸せに繋がるものであり、私たちに求められていると思います。

「^{ひと}女と^{ひと}男のいきいきフォーラム」は第2次向日市男女共同参画プランに基づき、人権尊重、男女共同参画社会の実現を目指し、市民公募により集まった実行委員と市の協働により企画・運営しています。実行委員会ではフォーラム開催のほか、人権や男女共同参画に係る諸課題について学習や意見交換を行っています。

男女共同参画は「個人の尊厳」と「両性の本質的平等」が保証され、誰もが性別に関わりなく個性と能力を発揮し、明るく伸びやかに生きられる社会を目指します。私たち「^{ひと}女と^{ひと}男のいきいきフォーラム」実行委員は、一日も早い男女平等社会の実現を心から願っています。

「^{ひと}女と^{ひと}男のいきいきフォーラム」実行委員会

^{*1}ジェンダーギャップ指数…経済・政治・教育・健康の4分野14項目で男女格差を数値化したもの

^{*2}家事育児分担比…参考：総務省「社会生活基本調査」

^{*3}非正規雇用率…総務省「労働力調査（詳細集計）」より

平成29年度 ^{ひと}女と^{ひと}男のいきいきフォーラム 開催概要

1 日時 平成29年12月10日（日）午後1時～2時45分

2 場所 イオンモール京都桂川店内3階イオンホール

3 内容 講演 ^{ひと}女男の生き方を考える～もっと輝く明日へ～

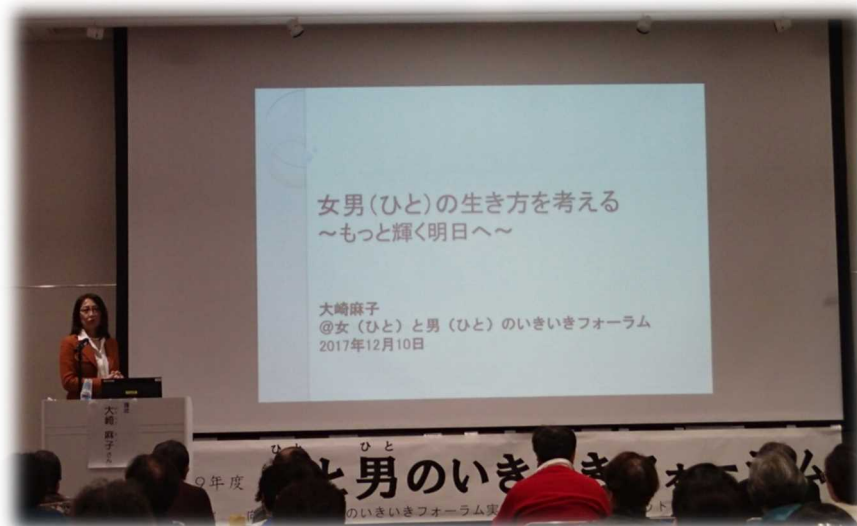
講師 大崎麻子さん

同時開催 パープルリボン展、人権パネル展

4 参加者 86名

アンケート回収数 76枚（回収率 88.4%）

（アンケートの詳細は、14～16ページをご覧ください）



<当日の様子>



たくさんのお客様が来場されました！



啓発コーナー



開場後は、次々に来場されるお客様の受付に大忙し



司会も実行委員が担当します



人権パネル展

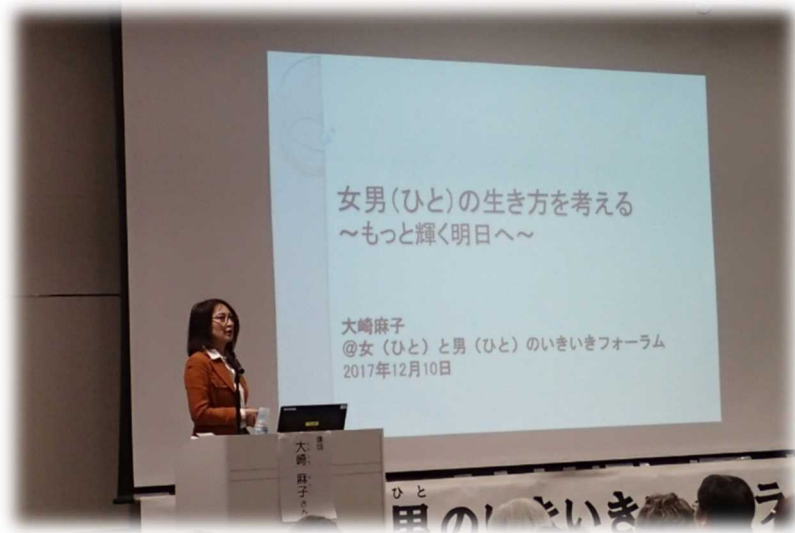
受付・司会だけでなく、準備、会場整理、写真撮影、講師の接待、記録集編集、総括といきいきフォーラム実行委員は、見えなくてもフォーラムを支えています。



大崎 麻子さんの講演について

演題 ^{ひと}女男の生き方を考える～もっと輝く明日へ～

講師 大崎 麻子さん (開発政策・ジェンダー専門家・関西学院大学客員教授)



講演では、海外で子育てをしながらUNDP（国連開発計画）で働いたご自身の経験に基づいてお話をされました。世界と日本におけるジェンダーを取り巻く現状を踏まえながら、「エンパワーメント」や4つの「WORK」という考え方を分かりやすく説明し、一人ひとりが幸せに生きていくにはどう行動していけば良いのか、多くのヒントを示してくださいました。

※以下に講演のポイントをご紹介します。

1 人間開発とエンパワーメント

国連の開発援助機関であるUNDPでは、「人間開発」という考え方を提唱しています。「人間開発」とは、一人ひとりの人間が持って生まれた可能性を开花させ、社会の一員として尊厳のある人生を生きられるようにすること、そのために必要な環境を創ることです。

「人間開発」のために必要な要素として、①健康、②教育、③生計手段（自分の意思で生きていくための経済力）、④政治や社会への参画の4つを挙げています。特に④の参画は、より主体的に参加することで、社会と繋がり、助け合いながら生きていくために重要とされている要素です。

この4つの要素を身につけるプロセスを「エンパワーメント」といいます。「エンパワーメント」は、人生や日常生活におけるあらゆる選択肢を自分の意思で選び取って生きていくための力をつけるプロセスです。また、女性のエンパワーメントにおいては、男性と対等な立場で意思決定に参加するための力を身につけることも大切な要素です。

2 女性のエンパワーメントとジェンダー平等

大崎さんは、UNDPで「人間開発」の考え方に基づいて女性支援プロジェクトに携わっていらっしゃいました。支援プロジェクトの中で、子ども時代に女の子だからという理由で学校に行かせてもらえなかった女性たちが、健康に関する知識を身につけ、教育を受け、生計手段を確保することで、家庭や地域の中での発言力を高め、意思決定にも対等に参画できるようになっていきました。さらに、地域や社会をより女性たちにとって暮らしやすく、次世代の女の子たちにとって生きやすいものにしていこうという動きが出てきました。

生まれた国や地域によって違いはあるものの、性別に基づく障壁を取り除くことの必要性と女性への投資効果が大きいことをカンボジアやグアテマラの女性たちの写真を交えて話してくださいました。

ジェンダーとは、男らしさ、女らしさのイメージから社会的・文化的に作られた性別のことを指します。これは、知らず知らずのうちに刷り込まれていて、法律や制度にも反映されています。誰もが権利、機会、責任を持ち、対等に意思決定に参画していくジェンダー平等社会の実現のためには、女性のエンパワーメントがとても重要です。

3 「幸せに生きる」ためには

日本は、世界幸福度調査において157か国中53位です。「〇〇ちゃんのお母さん」や「〇〇会社の部長」といった「属性」に影響を受けやすく、年齢を重ね「属性」を失ったときに幸福度が下がるという傾向があります。幸せに生きていくためには、「属性」にとらわれず、物事を自分で考え、自分で決めながら生きていくこと（エンパワーメント）と自分ではどうしようもないことが起こった時に何度でも立ち上げられること（レジリエンス＝回復力）が大切です。そして、助けが必要な時に「助けて」と言える力（受援力）も主体的に生きていくうえで、とても大事なスキルです。

4 4つの「WORK」

UNDPでは、WORK（活動）を人間開発の視点から、①有償労働、②無償ケア労働（家事、育児、介護等）、③ボランティア活動や地域活動、④創造的な活動の4つに分類しています。生きていくためには、①が不可欠ですが、②③④の労働や活動も私たちの生活や人生に大きな意味を持ち、日々の生活や社会の豊かさを支える大切な「WORK」です。

私たちは、生涯を通じて「WORK」し続けます。そのバランスは、その時々状況や環境で変わります。今の自分は、どのような状況に置かれ、どういう役割を担っているのか、客観的に見ることで新しい気づきが得られるかもしれません。

価値ある「WORK」をしていまいしょうと参加者にエールを送られました。

【講師について】

◆経歴

神奈川県鎌倉市出身

1992年 米国プリンマー大学留学

1994年 上智大学比較文化学部卒業

1997年 米国コロンビア大学国際関係・公共政策大学院修了
(国際関係修士号 人権・人道問題専攻)

1997-2004年

国連開発計画 (UNDP) ニューヨーク本部開発政策局
プログラム・マネージャー

2006-2007年

ほっとけない世界のまずしさ政策アドバイザー

2007-2010年

国連開発計画 (UNDP) 駐日代表事務所政策アドボカシー専門家

◆活動

国連開発計画 (UNDP) で途上国の女性支援やジェンダー平等の推進を担当。
カンボジア、グアテマラ、エチオピアなど、世界各地でプロジェクトを手掛けると同時に、多国間の政策協議や国連会議にも多数出席した。

現在は、フリーの開発政策・ジェンダー専門家として国連PKO (平和維持活動) 派遣要員へのジェンダー研修をはじめ、外務員、JICA、内閣府、国際機関、NGO等向けに、政策提言・評価、講演、社会貢献活動のアドバイジングなど幅広く活動している。

世界の開発・人道支援を牽引しているゲイツ財団「グローバル・アドボカシー戦略ミーティング」に日本のNGOネットワークを代表して参加するなど、活動は世界中である。

日本国内でも、ジェンダーの視点から、東日本大震災復興支援のための女性支援に尽力している

◆ライフワーク

“女性も男性も同じように、持って生まれた可能性を开花させられる国・社会づくり、教育”

◆出演番組

サンデーモーニング (TBS) などにコメンテーターとして出演中。

◆著書

「女の子の幸福論 もっと輝く、明日からの生き方」(講談社)

「エンパワーメント 働くミレニアル女子が身につけたい力」(経済界)

【講演の感想】

参加者のアンケートからも、学びや気づきが多く、それぞれによりよい未来のためにできることを考える機会となったことが伺えました。記入された感想の中から、抜粋してご紹介します。

(講演に対する意見、感想欄への記載内容を原文のまま掲載しています)

私は自分の意思で決定し行動することができていないように感じていた。知識、技能をつけて頑張っていこうと思った。(20代 女性)
想像していたのとは違いましたが、世界の情勢を知ることができて良かったです。(40代 女性)
「皆、生涯(日々)workしている」心に残る言葉をいただき、ありがとうございました。(50代 男性)
新しい情報を教えられました。このような機会がなければ、知り得ないことが多かったです。講師について、世界で働いていた方とは驚いています。我娘たちにこのような女性の働き方を教えたいと思います。(60代 女性)
ワーク(活動)の重要性が理解できた。(60代 男性)
戦争が最大の人権侵害ということを改めて実感しました。実際に足を運んで体験されたお話のリアリティがとても重かったです。最後の「受援力」とても大切だと思いました。(60代 女性)
教育の大切さに始まり、4つのワークを学び知ること、幸福度を目指せるような講演でした。(60代 男性)
物事を自分で考え、自分で決めながら生きていくことが大事であるということが分かりました。(60代 女性)
フォーラムは、良い意見を聞かせてもらい、新しい知識、世界が開けて嬉しかったです。(60代 男性)
向日市はまだまだ人権に関して意識が低いと感じている。人と人が結びつき、相手を尊重していくためには、各々のエンパワーメントを高めていくことが大事だと思った。特に向日市の教育、学校は人権に関して学ぶところが大きいと感じている。(60代 女性)
基本的には、男、女というよりも楽しく生きていくために互いに〇になればよいと思っています。互いに不慣れなところに協力しながら楽しく生活できればと願っています。(60代 男性)
日本の女性のこれからのために、各々のできることでつながり合えればと思います。(70代 女性)
世界観を色々と教えていただいて、色々と発見があり、教えられて有意義な講演で、ありがとうございました。ワーク(活動)について、楽しい意見で参考になり、私も頑張るパワーになると思います。考え方に共感でき嬉しかったです。ありがとうございました。(70代 男性)



パールリボン展



幸せな社会

小さな声を
大きな力に



私が一番きれいだったとき
(茨城のり子)



ボランティアグループ「ひまわり」さんの作品



向日市職員の作品



こんな心で居たい



暴力ダメ 絶対！！



あなたは一人ではないよ



パープルリボンタペストリー



一人で悩まないで

3回目となる今回のパープルリボン展は多くの作品が集まり、13点の応募がありました。

どれも「暴力がなくなってほしい」と思いが込められた作品で、講演会に来られた多くの方が足をとめ、熱心に鑑賞しておられました。

ひと 女男の生き方を考える

～もっと輝く明日へ～

私たちがもっと幸せに生きるカギを見つけませんか。女性も男性もさらに輝くために、どのようなことに取り組みれば良いのか、ともに考えましょう。

平成29年

12月10日(日)

午後1時～午後2時40分
(午後0時30分開場)

会場 イオンモール京都桂川

3階 イオンホール

※専用の駐車場はありません。施設内の駐車場をご利用の場合は、通常の駐車料金ががかかります。

同時開催 パープルリボン展
人権パネル展

定員 200人(参加費無料) 要約筆記・手話通訳あり

優先入場券 11月2日(木)から配布 フォーラム当日、午後0時50分まで優先的に入場いただけます。

【配布場所】市民参画課(市役所本館2階)、各コミセン・地区公民館、図書館

市民音楽祭会場内、向日市まつり会場内(いきいきフォーラムコーナー)にて配布予定

一時保育 満1歳以上就学前までの幼児対象(定員8人・要予約)
11月24日(金)までに保護者の方が電話、ファックス、電子メールいずれかの方法で市民参画課へお申込みください。当日はイオンモール京都桂川館内のラビキッズワールドで保育をします。



講師 大崎 麻子さん

(開発政策・ジェンダー専門家・関西学院大学客員教授)

上智大学比較文化学部卒業、米国コロンビア大学国際関係・公共政策大学院修了(国際関係修士号 人権・人道問題専攻)国連開発計画(UNDP)で途上国の女性支援やジェンダー平等の推進を担当。カンボジア、グアテマラ、エチオピアなど、世界各地でプロジェクトを手掛けると同時に、多国間の政策協議や国連会議にも多数出席。サンデーモーニング(TBS)などにコメンテーターとして出演中。著書に「女の子の幸福論 もっと輝く、明日からの生き方」(講談社)

問い合わせ 向日市市民生活部市民参画課

電子メール sankaku@city.muko.lg.jp

電話 (075) 931-1111 (代表)

ファックス (075) 922-6587





～暴力がなくなっしてほしいという想いをこめて～

パープルリボン展

作品集
募集

パープルリボンは、「女性に対する暴力をなくす運動」の国際的なシンボルマークです。
このパープルリボンを使った、女性に対する暴力がなくなっほしいという想いが込められた作品を募集し、「パープルリボン展」を開催します。

募集内容

パープルリボンをテーマにしたオリジナル作品～絵画、手芸、造形など～

- 1人で持ち運びができるサイズ・重さのもの ● 映像・食品不可
- 応募作品は、原則返却させていただきます

◆ 展示日 11月18日(土)・19日(日)「向日市まつり」開催時(向日町競輪場)
12月10日(日)「女と男のいきいきフォーラム」開催時
(イオンモール桂川3階 イオンホール)

◆ 募集期間 平成29年10月2日(月)～11月10日(金)

◆ 応募方法 作品と応募用紙を直接、市民参画課へ持参してください。応募用紙は、市民参画課窓口のほか、市のホームページでもダウンロードできます。

◆ 注意事項 展示が困難と思われる場合、お断りすることがあります。また、作品が破損した場合、弁償はいたしかねます。あらかじめご了承ください。

作品には、
「暴力を許さない」
「あなたはひとりじゃないよ」
といった様々な想いが
込められています。

申込み、問い合わせ先

向日市 市民生活部 市民参画課
電話 075-931-1111/FAX 075-922-6587
電子メール sankaku@city.muko.lg.jp

<応募用紙は裏面です>

<写真提供>
右：けいたま
左：長岡京市

ご回答いただいた方に、先着で粗品をプレゼントいたします！

平成29年度「女と男のいきいきフォーラム」アンケート

今後、本市の男女共同参画事業の参考にするため、アンケートにご協力をお願いします。

(※ 該当するものに○印または記入してください。複数回答可。)

差し支えなければお答えください。

○ 性別 女・男・()

○ 年齢 (歳代)

○ 住所 市内(物集女・寺戸・森本・鶏冠井・向日・上植野)・市外()

1 今回の「女と男のいきいきフォーラム」を何で知りましたか？

①広報むこう ②回覧板 ③公共施設でのポスター・チラシ

④新聞 ⑤知人から ⑥その他 ()

2 この催しに参加された動機は何ですか？

①講師または講演に興味があって ②パープルリボン展示に興味があって

③男女共同参画事業について関心があって ④余暇の利用

⑤その他 ()

3 講演「女男の生き方を考える～もっと輝く明日へ～」
講師 大崎 麻子さん についてお聞かせください。

(1) 内容はいかがでしたか。

①よかった ②まあまあよかった ③どちらともいえない ④よくなかった

(2) 新しい発見はありましたか。

①あった ②まあまああった ③どちらともいえない ④あまりなかった

感想(講演のテーマや内容、講師等について)

Large empty rounded rectangular box for writing comments.

裏面も記入をお願いします！

- 4 今回の「女と男のいきいきフォーラム（パープルリボン展や人権パネル展を含む全体）」
はいかがでしたか？
ご意見・ご感想がございましたらお聞かせください。

①よかった ②まあまあよかった ③どちらともいえない ④よくなかった

感想

()

- 5 今後、「女と男のいきいきフォーラム」についてどのような催しを期待しますか？
(具体的もしくは抽象的な内容・人名などでも結構です。)

①講演会 ()

②映画 ()

③その他 ()

- 6 これまでの5年間で、男女共同参画や人権に関する講演会・研修会に参加されたことがありますか？

①今日がはじめて ②1～2回 ③3～4回 ④5回以上

- 7 イベントに参加して、男女共同参画や人権についての関心や理解は深まりましたか？

①深まった ②どちらかといえば深まった ③変わらない ④わからない

- 8 今後もこのようなイベントに参加したいと思えますか？

①はい ②いいえ ③わからない

- 9 向日市は個人や男女の人権が尊重された豊かな社会になっていると思えますか？

①そう思う ②どちらかと言えばそう思う

③どちらかと言えばそう思わない ④そう思わない ⑤わからない

- 10 その他、お気づきの点がございましたら記入してください。

()

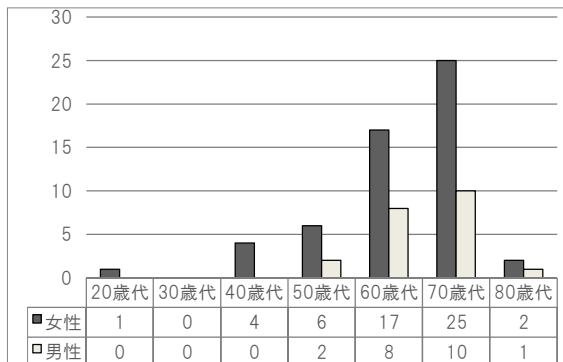
ご協力ありがとうございました。

女と男のいきいきフォーラム 当日アンケート集計結果

女と男のいきいきフォーラム参加者に対し、アンケートを行いました。
ご協力、ありがとうございました。

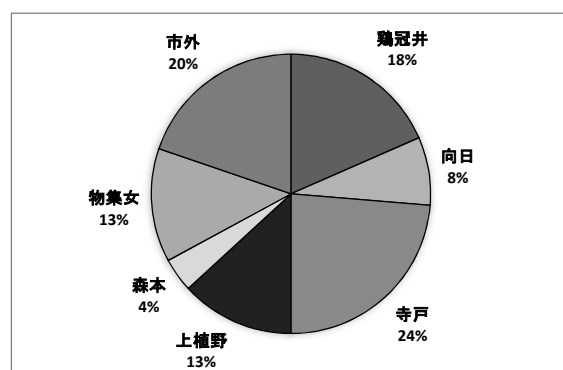
性別と年齢

	女性	男性	総計
20歳代	1	0	1
30歳代	0	0	0
40歳代	4	0	4
50歳代	6	2	8
60歳代	17	8	25
70歳代	25	10	35
80歳代	2	1	3
総計	55	21	76



お住まい

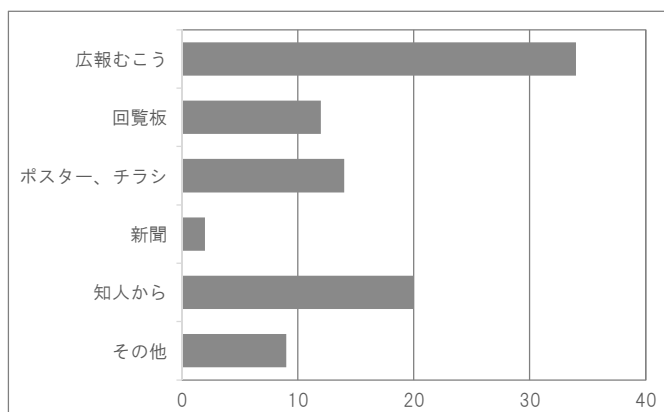
	女性	男性	総計
鷺冠井	9	5	14
向日	5	1	6
寺戸	13	5	18
上植野	5	5	10
森本	3	0	3
物集女	8	2	10
市外	12	3	15
総計	55	21	76



1 今回の「女と男のいきいきフォーラム」を何で知りましたか？(複数回答可)

	女性	男性	総計
広報むこう	21	13	34
回覧板	7	5	12
ポスター、チラシ	10	4	14
新聞	1	1	2
知人から	19	1	20
その他	7	2	9
総計	65	26	91

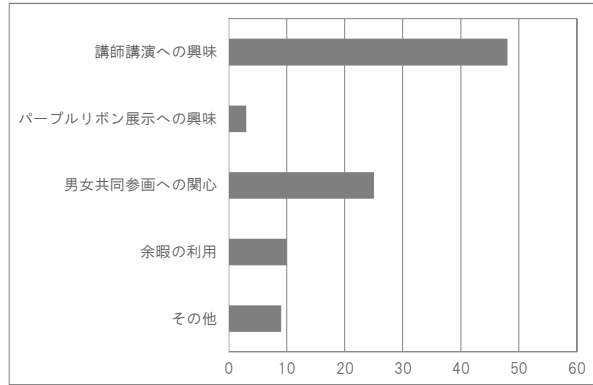
その他
 ・イオンモール ほか1名
 ・向日市まつり ほか1名
 ・大崎麻子さんより
 ・民生委員への案内



2 この催しに参加された動機は何ですか？（複数回答可）

	女性	男性	総計
講師講演への興味	33	15	48
パープルリボン展示への興味	2	1	3
男女共同参画への関心	20	5	25
余暇の利用	6	4	10
その他	7	2	9
無回答	2	1	3
総計	70	28	98

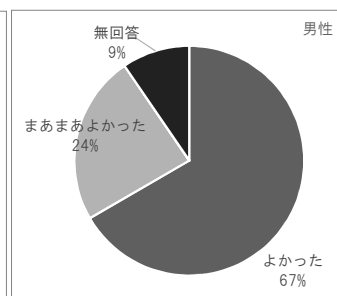
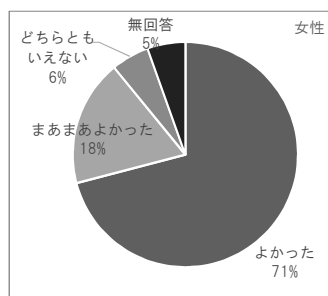
その他
 ・コミセンで優先入場券をもらった
 ・たまたま通りかかった
 ・知人の紹介 ほか1名
 ・教養を高めるため ほか1名
 ・昨年の講演が面白かったから



3 講演会について

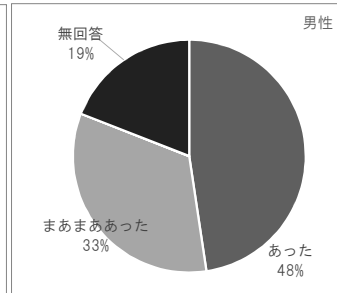
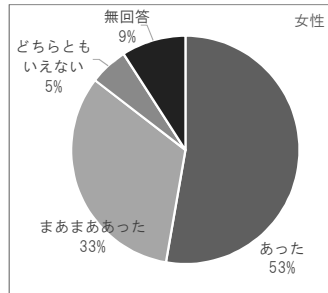
(1) 内容はいかがでしたか？

	女性	男性	総計
よかった	39	14	53
まあまあよかった	10	5	15
どちらともいえない	3	0	3
無回答	3	2	5
総計	55	21	76



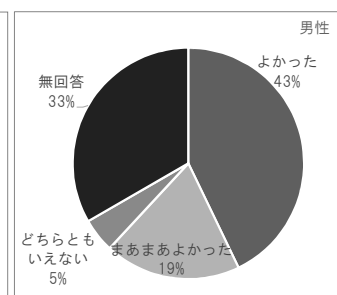
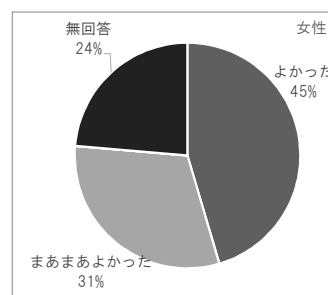
(2) 新しい発見はありましたか？

	女性	男性	総計
あった	29	10	39
まあまああった	18	7	25
どちらともいえない	3	0	3
無回答	5	4	9
総計	55	21	76



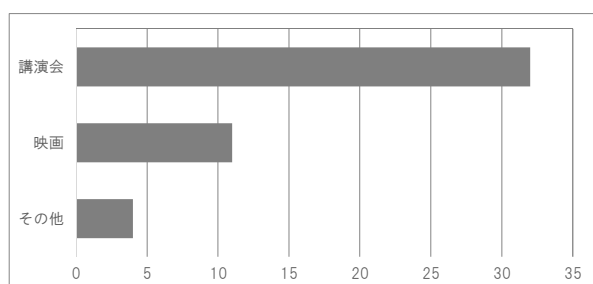
4 今回の「女と男のいきいきフォーラム」はいかがでしたか？

	女性	男性	総計
よかった	25	9	34
まあまあよかった	17	4	21
どちらともいえない	0	1	1
無回答	13	7	20
総計	55	21	76



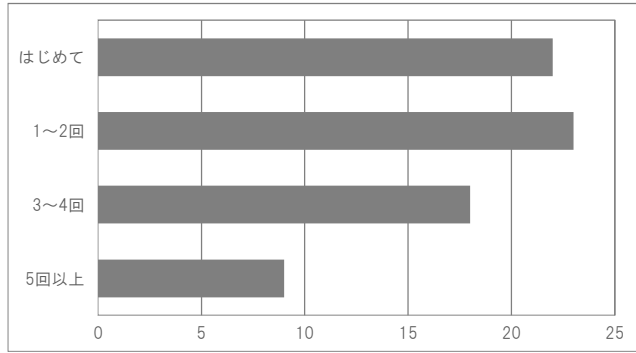
5 今後、「女と男のいきいきフォーラム」についてどのような催しを期待しますか？（複数回答可）

	女性	男性	総計
講演会	24	8	32
映画	8	3	11
その他	3	1	4
無回答	24	10	34
総計	59	22	81



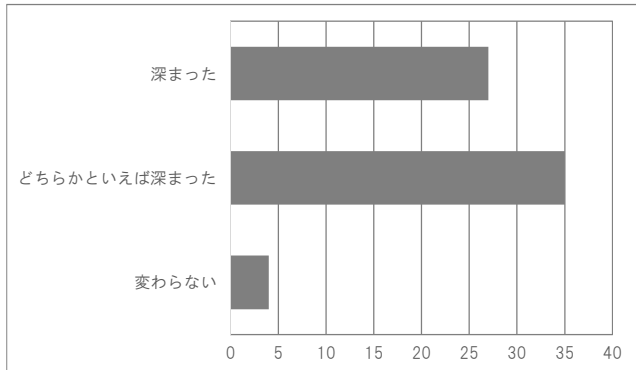
6 これまでの5年間で、男女共同参画や人権に関する講演会・研修会に参加されたことがありますか？

	女性	男性	総計
はじめて	18	4	22
1～2回	16	7	23
3～4回	11	7	18
5回以上	7	2	9
無回答	3	1	4
総計	55	21	76



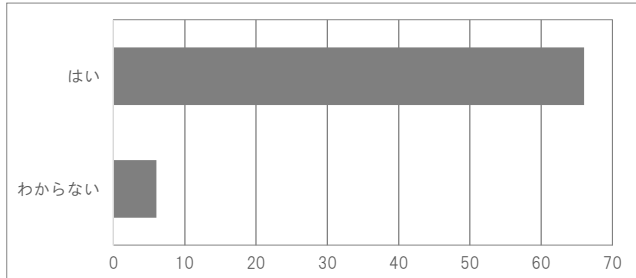
7 イベントに参加して、男女共同参画や人権についての関心や理解は深まりましたか？

	女性	男性	総計
深まった	19	8	27
どちらかといえば深まった	25	10	35
変わらない	3	1	4
わからない	0	0	0
無回答	8	2	10
総計	55	21	76



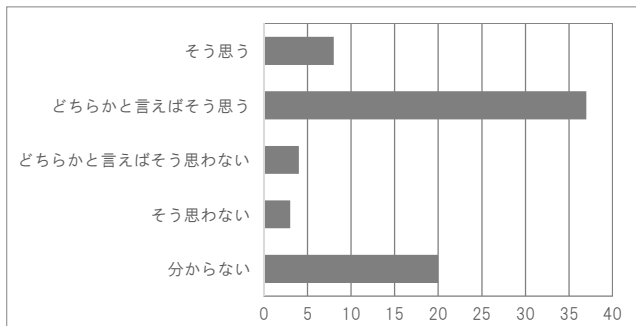
8 今後もこのようなイベントに参加したいと思いませんか？

	女性	男性	総計
はい	46	20	66
わからない	6	0	6
無回答	3	1	4
総計	55	21	76



9 向日市は個人や男女の人権が尊重された豊かな社会になっていると思いますか？

	女性	男性	総計
そう思う	6	2	8
どちらかと言えばそう思う	23	14	37
どちらかと言えばそう思わない	4	0	4
そう思わない	2	1	3
分からない	17	3	20
無回答	3	1	4
総計	55	21	76



参加者については、昨年度と比較して、男性の割合が高く、年齢層の幅が狭い（60代、70代が特に多い）という傾向がありました。

アンケート結果からは、より男女共同参画に関心が高い人が、参加したということが分かりました。講演会については、「よかった」「新しい発見があった」という声が多く、満足度が高いものとなりました。参加者を増やすためにどう工夫していくのか、男女共同参画に対して関心が低い人にどうアプローチしていくのかということが今後の課題です。

男女意識チェックアンケート?



次の質問の「はい」「いいえ」の当てはまる方に○をつけてください。

「意識したことがない」「考えたことがない」場合は、「いいえ」に○をしてください。

あなたのこと（性別・年代）について、○で囲んでください。

性別： 女性 ・ 男性 ・ ()

年代： 10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80代 ・ 90歳以上

①	責任ある立場には男性がついたほうが周りからの信頼を得られると思う。	はい	いいえ
②	恋人同士のデート代の支払いは、割り勘ではなく、男性が払うほうがよい。	はい	いいえ
③	バスやタクシーなどの運転者が女性だと不安を感じる。	はい	いいえ
④	家庭を持っている男性が、スーパーで買い物をしている姿を見ると気の毒に思ってしまう。	はい	いいえ
⑤	女性が外出するときは、食事や洗濯など家事をすませてからがよい。	はい	いいえ
⑥	自治会やPTA活動は、実際に参加するのが女性でも、代表は男性がよい。	はい	いいえ
⑦	地域の集まりで、男性がまとめ役をし、女性がお茶出しや後片付けなどをすることは特におかしいことではない。	はい	いいえ
⑧	育児休業や、介護休暇を男性がとることに違和感を覚える。	はい	いいえ
⑨	結婚後は、夫婦は夫の姓を名乗る方が自然である。	はい	いいえ
⑩	父親が子どもの友だちの名前がわからないのは仕方がない。	はい	いいえ
⑪	「主人」「奥さん」という言葉に抵抗を感じない。	はい	いいえ
⑫	セクハラ、セクハラと目くじらを立てる女性は大人気ない。	はい	いいえ
⑬	女性の上司の下で働くのは働きづらいと思う。	はい	いいえ
⑭	算数や理科は男子、国語や音楽は女子に向いている。	はい	いいえ
⑮	手紙の宛先・差出が夫婦連名の場合、夫は姓名、妻は名前だけでよい。	はい	いいえ

※⑮ はい いいえ いいえ いいえ

参考

向
日
花子 太郎

向
日
花子 太郎

向 向
日 日
花子 太郎

向
日
太郎 花子



「はい」に○をした数は
はいくつでしたか?

個

**A** 0～5個だったあなた

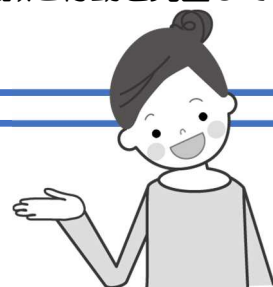
あなたは、「男らしさ」「女らしさ」にこだわらず、「自分らしさ」を尊重して生きていますね。あなたのジェンダーにとらわれない考え方を、周囲の人にも波及させて、快適な生活の場を広げていきましょう。21世紀はあなたの時代です。

B 6～10個だったあなた

あなたは「男だから」「女だから」にこだわるのはおかしいと気づき始めているようです。男女平等なんて常識と思いつつ、周囲の目を気にしすぎて、意識と行動の矛盾に悩んでいるかもしれません。性別に対するこだわりを思い切って取り除き、一番身近なところから意識と行動を見直していきましょう。

C 11～15個だったあなた

あなたは、男の役割、女の役割にこだわっていませんか？
どちらも同じように参加できる地域の方が、きっと暮らしやすいはずですよ。
ほんの少し、生活を見直してみましょ。



このアンケートは、平成29年11月18日
・19日の向日市まつりで、来場された皆さんに
答えていただきました。
ご協力ありがとうございました。

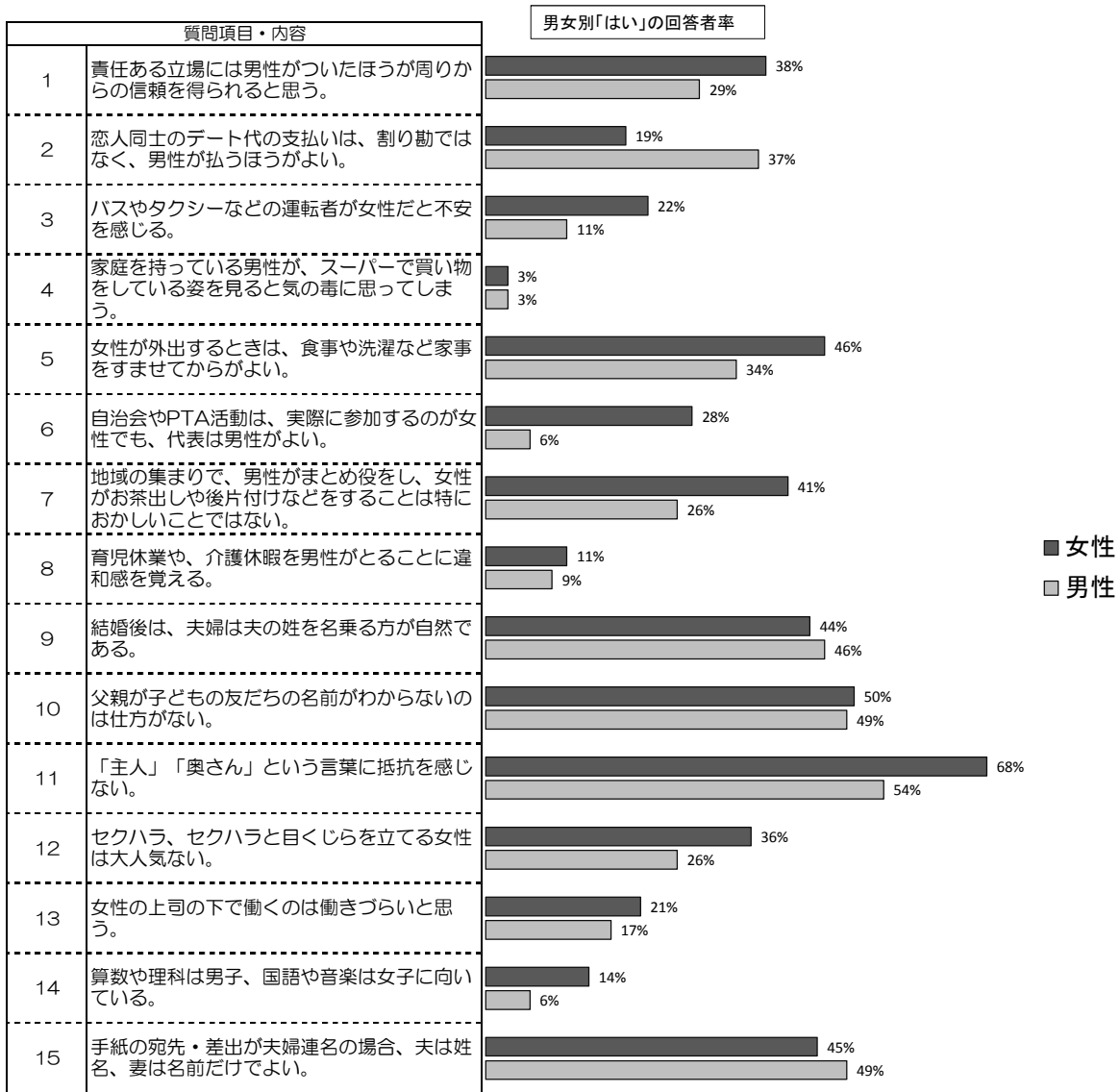
男女意識チェックアンケート まとめ

実施日：H29/11/18、19 実施：いきいきフォーラム実行委員会
 実施会場：向日市まつり2017（相談展示コーナー②）

回答者の年齢別・性別内訳人数

回答者	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	無回答	計
女性	14	0	9	8	6	23	35	7	0	0	102
男性	0	0	1	5	5	13	10	0	1	0	35
無回答	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	6
計	14	0	10	13	11	36	49	7	1	2	143

(単位：人)



「はい」の数の年代別 平均値

※15設問中、一人あたりが「はい」と答えた平均回数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
女性	4.6	0.0	3.4	4.9	4.3	4.3	5.3	7.4	0.0
男性	0.0	0.0	0.0	2.4	3.2	4.3	4.8	0.0	8.0



男女意識チェックアンケート まとめ結果について

- 女性の場合、もっとも「はい」の割合が高かったのは、「⑪ 「主人」「奥さん」という言葉に抵抗を感じない」（68%）であり、そして「⑩ 父親が子どもの友だちの名前がわからないのは仕方がない」（50%）、続いて「⑤ 女性が外出するときは、食事や洗濯など家事をすませてからがよい」（46%）となった。
昨年度は、「はい」の割合が高かったものから順に⑪（61%）、⑩（49%）、⑮（47%）という結果だった。
- 一方、男性がもっとも多く「はい」と答えたのは、「⑪ 「主人」「奥さん」という言葉に抵抗を感じない」（56%）であった。その次に、「⑩ 父親が子どもの友だちの名前がわからないのは仕方がない」と「⑮ 手紙の宛先・差出が夫婦連名の場合、夫は姓名、妻は名前だけでよい」（どちらも49%）が多かった。
昨年度は、「はい」の割合が高かったものから順に⑪（56%）、②・⑮（どちらも53%）という結果だった。
- もっとも「はい」の割合が低かったのは、「④ 家庭を持っている男性が、スーパーで買い物をしている姿を見ると気の毒に思ってしまう」（女性3%、男性3%）で、そのあとに「⑧ 育児休業や、介護休暇を男性がとることに違和感を覚える」（女性11%、男性9%）と「⑭ 算数や理科は男子、国語や音楽は女子に向いている」（女性14%、男性6%）が続いた。
昨年度は、「はい」の割合が低かったものから順に④（女性2%、男性3%）、⑧（女性5%、男性15%）という結果だった。
- 男性と女性の「はい」と答えた割合の差がもっとも大きかったのは、「⑥ 自治会やPTA活動は、実際に参加するのが女性でも、代表は男性が良い」であり、その次に多かったのは「② 恋人同士のデート代の支払いは、割り勘ではなく、男性が払うほうがよい」であった。⑥は女性が多く、②は男性の方が多かった。
昨年度は、男性と女性の「はい」と答えた割合の差が大きかったものから順に②、③という結果で、ともに男性の方が多かった。

一人あたりが「はい」と答えた平均回数は年代によって差がありましたが女性は70代、80代がほかの年代より高く、男性は30代以降で年代を重ねるにつれて「はい」と答えた平均回数が増加し、「女らしさ」「男らしさ」を肯定する意見が根強い傾向が見られました。今後も真の男女共同参画社会実現に向けて地道な啓発が必要であると感じました。

男女意識チェックアンケートを通して、いろいろな意見を聞くことができ、意識啓発の良い機会となりました。

これからも、女と男のいきいきフォーラム実行委員会と向日市は、「男らしさ」「女らしさ」にこだわらず、一人一人が個人として尊重される社会をめざして活動を続けます。

～実行委員の思い～1年間を振り返って

1年間を振り返って、講演会や広報活動などを通じて一定の前進があったと評価しています。

メインイベントである講演会については、大崎先生のお話で人間開発と女性のエンパワメントについて体系的な理論と実際を聞くことができ、今後の活動の指針として有意義でした。

当日は、講演のほかに同時開催としてパープルリボン展や人権パネル展を実施したことで、市民啓発に貢献することができました。

一方、反省点としては、講演会への参加者が前年度よりも少なかったことは今後の課題です。会場の問題や事前広報など、問題点を分析し改善して行く必要があります。そのためには、日本女性会議出席の成果や市民意識調査の時系列的分析などを活用して、目の前のできることから改善を進めて行きたいと考えています。

いま、政府の重要施策の一つである「一億総活躍社会の実現」や「女性活躍推進法の完全実施」などが叫ばれています。この時流に乗り、女と男（ひと）の活躍の場を拡げる好循環を追求して行きたいと考えています。現実には厳しいものがありますが、粘り強い活動が望まれます。



不覚にも、フォーラム当日体調をくずし、出席できず、講演を聞くことができませんでした。心から残念でなりません。

1年間。実行委員会は、いつも新鮮で、楽しく過ごさせていただきました！



昨年の朝ドラ「ひよっこ」にはほのぼのとした温もりがあり、楽しく見ていました。その背景にあるのは家族・地域・職場等での人と人の思いやり、そして連帯だと思えます。翻って昨今の内外の指導者達の極端な「…ファースト」という政治手法には大変気になるところがあります。

「…ファースト」の行く先は、「分断」（宗教・国家・民族・富の格差等）であり紛争による混乱ではないでしょうか。

人に優しく差別のない世界を目指す私たちは、人と人の温もりのある連帯感で包まれた社会を強く望みます。

この実行委員会では、市民の目線で男女共同参画を考え、より多くの皆さんに参加してもらえるよう講師の選定やテーマなどを話し合い、女と男のいきいきフォーラムの準備をしています。

その中で「男だから」「女だから」ではなく、互いに話し合い理解していくことの大切さや、人としてよりよく生きていくための視点を学ぶことができました。こうした積み重ねを経て、いきいきフォーラム当日を迎えているので、どの講師さんのお話も勉強になります。この度の大崎さんからは、国際的な視点から人として生きていくことを学びました。

実行委員会もフォーラムも、なにも難しいことはありません。こうした場に関わることで、何かに気付いたり学ぶきっかけになること請け合いです。気軽にご参加ください。



1 番の魅力は市民にも問いかける要素の濃い、その年度に行われる講演会だと思います。今年度は大崎麻子さんに「女男の生き方を考える～もっと輝く明日へ～」と題して講演をしていただきました。

その中で、特に印象深く思いましたのは、大崎さんが国連の仕事に関わっていた時に悠然とお子さんを連れて仕事、出張に行かれたことです。

そのような勇気ある行動に出ることはとても大切です。翻って、最近東京新聞に野田聖子総務大臣がフィリピンに公務で出張した時お子さんを連れての行動、それプラス彼女の夫さんにも協力を得て責務を果たしたことが載っていました。

詳しいことは分かりませんが、このような事象が記事になること自体まだまだ我々女性の意識は十分ではないなと思いました。

女性（母親である場合もあり）、男性ではなく、フォーラムでも言っているように性別ではなく、それぞれができることを建設的に協力することはできないものであろうかとのこの1年間しっかり考えさせられました。

まだまだ、時を要するでしょうが、少しでも女性が生きやすい社会になれば良いのにと心から願わずにられません。女性が生きやすいということは、すべての人類、LGBTの人たちもしかりと思えます。

今後も、学びを新たにして、アンテナを張りながら努力したいと思います。

先日100歳になる叔母が他界した。最後まで元気で自然死（老衰）だった。叔母は京都生まれ京都市育ち、西陣の仕事で生きた。女性の生き方にもいろいろある。

この会で学習を重ねているが、どう生きることが幸せなのか考えさせられる。これから先は男女共同参画社会であることは当然だろう。そのためには、男性の労働に関する改革がなければ難しい。やっと長時間労働が問題視されてきた。遅すぎる。

また、スマホやパソコンが使えなければ生きていけない世の中になりそうだ。高齢者には冷酷だが、男女に関わりなくできることなので共同参画社会発展の大きな一助になることを期待したいと願う昨今である。



今年も実行委員の一人として1年間務めさせていただきました。自由な発言を保障されていること、様々な背景を持っていらっしゃる委員皆様のご意見をたくさんお聞きできる本当によい機会だったと思います。

委員会の目的は、12月のフォーラムへの取組と成功だったと思いますが、向日市まつりでのアンケート調査では、お一人お一人との対話など、開かれた場での話合いが出来たこと等が、今後の問題解決のきっかけになるのではないかと感じました。

毎回の実行委員会での話合いは、大変勉強になりました。有難うございました。



過ぎ去る1年間って“光陰矢の如し”ですね。

現政権では働き方改革・女性活躍などの議論が進められていますが、日本の男女平等の度合いは、114位（144か国対象・「世界経済フォーラム」の報告より）という現状です。

ジェンダー格差・家族のあり方・働き方などは人それぞれ多様化しています、多様な考え方や意見を出し合い共感したり、考えたりするきっかけ（気づき）を提示、交流することで男女ともに人間らしく生き、働き、育児する道を切り開くことが出来るのではないかと考えます。

永年、向日市の“いきいきフォーラム”では多くの市民に働きかける機会を企画してきました。今年度は向日市男女共同参画推進条例施行以来、ようやく拠点が実現する年となり、男女共同参画に関する市民の生の声を聞き、有効に活用できる場となることを願っています。

12月のフォーラムに向けて、市役所の担当者の方や実行委員のメンバーで、ジェンダーの問題に取り組めたことは有意義であったと思う。毎月の実行委員会の中で、性差別の実態や現在の状況を、マスコミの報道をもとにそれぞれがどう考えるかを議論することは、とてもわくわくするものであった。ただ、その視点がグローバルな問題なのか、日本国内の政策から派生するものなのかで議論は問題提起にとどまっていたのも事実である。そうした中で、向日市まつりでの「アンケートの実施」やパープルリボンの意思表示は、私たちが暮らしている身近な地域での取組であり、ジェンダーを身近に感じた瞬間であった。そしてその集大成としてのフォーラムであるが、それ自体は十分に意味のあるイベントであると理解するが、さてその活動が今までの活動にどうリンクし発展していくものなのかの検証がなされないままフォーラムが開催され続けていくことへの危惧が私にはある。この向日市での男女参画はどのような状態で何が必要なのか。女と男が共に快適に暮らしていくためには、健康・教育・経済・政治でのそれぞれの場面で男女差がないようにと取組が期待されている。わが町では、果たして何が足りて何が足りていないのか。それは国や府レベルの問題なのか、市レベルの問題なのか。思いは尽きない。そうした思いを可視化できたのはこの実行委員会に参加できたことであり感謝にたえない。今後のわが町が女と男が暮らしやすい町であるよう切に望む。



5月から12月のフォーラムまで、毎月1回の実行委員会で、それぞれの思いを話し合う。時には意見の分かれることがあるが、行政の係の方たちとも上手く調整しながら進んでいく。この過程が楽しく、また講演当日はワクワクしている。そんな私は、フェミニズムの学習が、みんなと一緒に活動することが好きだと自負する。



ヒトは、新しいところへ行くときに、古いものをぶっこわさなければ行けないのか。新しいものを見つけたとき、新しいものを作るときもしかり。

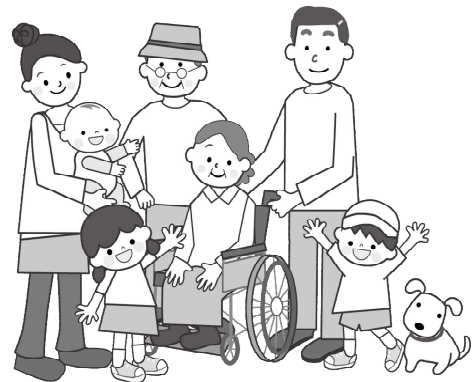


平成29年度 ^{ひと}女と男のいきいきフォーラム実行委員会 ^{ひと}年間の流れ

日程 (原則第3水曜日)		内容
第1回	5月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己紹介 ・ 男女共同参画施策について ・ フォーラムの企画について
第2回	6月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師、テーマ、講演内容について
第3回	7月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演内容について
第4回	8月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演内容について ・ パープルリボン作品展について
第5回	9月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演内容について ・ フォーラム当日の詳細な流れについて ・ 向日市まつりについて
第6回	10月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決定事項の確認と検討事項について ・ 向日市まつりでのいきいきフォーラムコーナーについて
第7回	11月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォーラム当日の進行、役割分担について ・ パープルリボン啓発について ・ 向日市まつりについて
	11月18日 11月19日	<p>☆向日市まつり（いきいきフォーラムコーナー）</p> <p>アンケートの実施、フォーラムの周知、整理券配布 パープルリボン啓発など</p>
第8回	12月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォーラム当日の進行について ・ 向日市まつりでの活動結果について
	12月10日	<p>☆女と男のいきいきフォーラム</p>
第9回	1月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォーラム総括、記録集の作成について ・ フォーラムのアンケート集計結果について ・ 向日市まつりでのアンケート集計結果について
第10回	2月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習会
第11回	3月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォーラム記録集の内容について ・ 次年度実行委員募集について

男女共同参画社会とは

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会（男女共同参画社会基本法第2条より）



男女共同参画に係る

キーワード



LGBT

Lesbian（レズビアン）…女性同性愛者

Gay（ゲイ）…男性同性愛者

Bisexual（バイセクシュアル）…両性愛者

Transgender（トランスジェンダー）…生まれたときに法律的・社会的に割り当てられた性別にとらわれない性別のあり方を持つ人（性同一性障がいを含む）

以上の頭文字をとった総称をいいます。

日本では、「性的少数派」や「性的マイノリティ」も同様の意味で用いられることがあります。



エンパワーメント

自らの意識と能力を高め、家庭や地域、職場などあらゆる分野で、政治的、経済的、社会的、文化的に力をつけること、及びそうした力を持った主体的な存在となり、力を発揮し、行動していくことをいいます。



固定的性別役割分担

男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けることをいいます。「男は仕事・女は家庭」「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等は固定的な考え方により、男性・女性の役割を決めている例です。



ジェンダー

「社会的・文化的に形成された性別」のことです。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）があります。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性・女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー／gender）といいます。



性的指向

人の恋愛・性愛がいずれの性別を対象とするかを表すものであり、具体的には、恋愛・性愛の対象が異性に向かう異性愛、同性に向かう同性愛、男女両方に向かう両性愛を指します。



積極的改善措置（ポジティブ・アクション）

様々な分野において、活動に参画する機会の男女間の格差を改善するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものであり、個々の状況に応じて実施していくものです。

積極的改善措置の例としては、国の審議会等委員への女性の登用のための目標の設定や、女性国家公務員の採用・登用の促進等が実施されています。



ドメスティック・バイオレンス（DV）

夫婦や恋人などの親しいパートナー間で行われる暴力のことで、その多くは男性から女性に振るわれています。殴る、蹴るなどの身体的暴力だけでなく、精神的暴力や性的暴力、経済的暴力なども、DVに含まれます。



パープルリボン運動

1994年にアメリカで始まった女性に対する暴力根絶の運動です。DVや虐待など、個人間にある暴力をなくすことや、暴力の被害にあっている人たちの安全を守り、勇気を与えること、また暴力の問題に関心を持ってもらうことを目的に、一人一人が参加、行動できる運動です。



リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

1994年にカイロで開催された国際人口・開発会議において提唱された概念で、今日、女性の人権の重要な一つとして認識されるに至っています。リプロダクティブ・ヘルス／ライツの中心課題には、いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由、安全で満足のいく性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなどが含まれており、また、思春期や更年期における健康上の問題等生涯を通じての性と生殖に関する課題が幅広く議論されています。



ワーク・ライフ・バランス

充実した人生を送るため、自分の価値観に合う働き方、仕事と生活の調和を考えようという概念。あるいは、仕事と私生活とが調和、両立している状態をさします。

ひと ひと
女と男のいきいきフォーラム実行委員会



川阪 宏子
酒井 美智子
高橋 裕
多田 久美子
田中 昭典
佃 れい子
仲島 久美
松田 フジ
松本 須美子
造酒 錦代
吉田 百合子
(50音順)



主催

^{ひと} ^{ひと}
女と男のいきいきフォーラム実行委員会・向日市

編集/^{ひと} ^{ひと}
女と男のいきいきフォーラム実行委員会

発行／向日市市民生活部市民参画課

〒617-8665

京都府向日市寺戸町中野20番地

TEL (075) 931-1111

FAX (075) 922-6587